

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平9-301042

(43) 公開日 平成9年(1997)11月25日

(51) IntCl. ⁸	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
B 6 0 N	3/10		B 6 0 N	A
	3/00			B

審査請求 未請求 請求項の数 4 F D (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願平8-147805

(22) 出願日 平成8年(1996)5月20日

(71) 出願人 000124096

株式会社バイオラックス

神奈川県横浜市保土ヶ谷区岩井町51番地

(72) 発明者 篠崎 伸哉

神奈川県横浜市保土ヶ谷区岩井町51番地

株式会社バイオラックス内

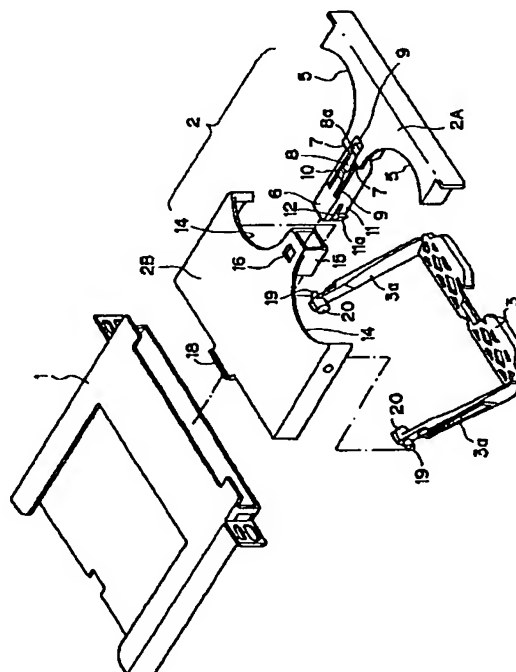
(74) 代理人 弁理士 市橋 俊一郎

(54) 【発明の名称】 カップホルダー

(57) 【要約】

【課題】 径の異なるカップでも、その径に応じて安定に保持することのできるカップホルダーの提供。

【解決手段】 車体側に固定されるハウジング1と、カップの受容孔を有して該ハウジング内に引き出し可能に支承されるホルダー体2と、該ホルダー体に回転可能に枢着されてカップの底部を載置支持する受け体3とを備えるカップホルダーにおいて、ホルダー体を前半部分2Aと後半部分2Bとに2分割し、当該前半部分と後半部分とをロック及びロック解除可能に連結して、前半部分と後半部分とに対向して形成されている保持縁5・14で、カップの受容孔を画成する構成となすことにより、前半部分と後半部分との連結状態を変化させるだけで、カップの径に応じた受容孔を自在に画成することが可能となるので、常に、径の大小異なるカップでも安定に保持できる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 車体側に固定されるハウジングと、カップの受容孔を有して該ハウジング内に引き出し可能に支承されるホルダー体と、該ホルダー体に回動可能に枢着されてカップの底部を載置支持する受け体とを備えるカップホルダーにおいて、上記ホルダー体を前半部分と後半部分とに2分割し、当該前半部分と後半部分とをロック及びロック解除可能に連結して、前半部分と後半部分とに対向して形成されている保持縁でカップの受容孔を画成するように構成したことを特徴とするカップホルダー。

【請求項2】 前半部分と後半部分の対向する保持縁で画成されるカップの受容孔が一部切欠されていることを特徴とする請求項1記載のカップホルダー。

【請求項3】 前半部分には、ロック爪を有する撓み可能な操作片を形成した連結壁を設け、後半部分には、上記操作片のロック爪を係止するロック孔を形成した嵌合壁を設けて、当該嵌合壁に対する連結壁の嵌合で、前半部分と後半部分とをロック及びロック解除可能に連結したことを特徴とする請求項1乃至請求項2のいずれかに記載のカップホルダー。

【請求項4】 ロック爪の表面が連結壁の嵌合壁に対する嵌入方向に下りテーパー状となっていることを特徴とする請求項3記載のカップホルダー。

【発明の詳細な説明】**【0001】**

【発明の属する技術分野】 本発明は、自動車のインストルメントパネル等に設けられる引出式カップホルダーの改良に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 従来のこの種カップホルダーとして、例えば、実開平5-32102号公報に示すものが存する。該従来のカップホルダーは、具体的には図示しないが、インストルメントパネル側に固定される箱形のハウジングと、カップの受容孔を有して該ハウジング内に引き出し可能に支承されるホルダー体と、該ホルダー体に回動可能に枢着されてカップの底部を載置支持する受け体とを備える構成となっている。

【0003】 そして、実際の使用に際しては、ハウジング内からホルダー体を引き出すと、受け体が自重により回動して、ホルダー体の受容孔の下方に待機するので、後は、当該受容孔内にカップを差し入れて、その底部を受け体上に載置支持すれば、これにより、カップが保持される。しかし、斯る従来のカップホルダーにあっては、ホルダー体の受容孔の径が成形時に予め決定されているので、当該受容孔によって保持できるカップの大きさは必然的に制限されることとなる。

【0004】 他方、近年は、マックスカップと称される径の大きなカップも登場している関係で、これら径の大きなカップをも保持するためには、ホルダー体の受容孔

をそれに応じて大径としなければならなくなるが、今度は、径の小さなカップをこの大径な受容孔で保持しようとすると、径差により、カップの安定性が損なわれて、径の小さなカップが受容孔内で徒にガタつく恐れがある。

【0005】 そこで、斯る事態を改善するものとして、実開平7-37787号公報に示す改良型のカップホルダーが提案されている。この改良型カップホルダーは、大径な受容孔の径を調整できる調整部材をホルダー体上に移動可能に設けて、径の小さなカップを保持する場合には、当該調整部材を受容孔の径を狭める方向へ移動させ、径の大きなカップを保持する場合には、逆に、受容孔の径を広げる方向へ移動させることにより、径の大小異なるカップでも、その径に応じて、安定した状態に保持できる構成となっている。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】 従って、改良型カップホルダーの下では、調整部材を使用することにより、受容孔の径を自在に調整できる利点はあるが、当該調整部材はホルダー体上に移動可能に配される関係で、使用時における外観上の見栄えが著しく害されるばかりか、カップホルダー自体が上下方向に大型化してしまう嫌いがあった。又、これは、先に説明した従来のカップホルダーにも言えることであるが、ホルダー体が有する受容孔は、あくまでも、正円形状として形成されているので、その径の如何に拘らず、マグカップの如き取っ手付のカップを保持することは不可能であった。

【0007】

【課題を解決するための手段】 本発明は、斯る従来及び改良型カップホルダーが抱える課題を有効に解決するために開発されたもので、請求項1記載の発明は、車体側に固定されるハウジングと、カップの受容孔を有して該ハウジング内に引き出し可能に支承されるホルダー体と、該ホルダー体に回動可能に枢着されてカップの底部を載置支持する受け体とを備えるカップホルダーにおいて、上記ホルダー体を前半部分と後半部分とに2分割し、当該前半部分と後半部分とをロック及びロック解除可能に連結して、前半部分と後半部分とに対向して形成されている保持縁でカップの受容孔を画成する構成を採用した。

【0008】 請求項2記載の発明は、請求項1を前提として、前半部分と後半部分の対向する保持縁で画成されるカップの受容孔が一部切欠されている構成を採用した。

【0009】 請求項3記載の発明は、請求項1乃至請求項2を前提として、前半部分には、ロック爪を有する撓み可能な操作片を形成した連結壁を設け、後半部分には、上記操作片のロック爪を係止するロック孔を形成した嵌合壁を設けて、該嵌合壁に対する連結壁の嵌合で、前半部分と後半部分とをロック及びロック解除可能に連

結する構成を採用した。

【0010】請求項4記載の発明は、請求項3を前提として、ロック爪の表面が連結壁の嵌合壁に対する嵌入方向に下りテーパ状となっている構成を採用した。

【0011】依って、請求項1記載の発明によれば、2分割されたホルダー体の前半部分と後半部分との連結状態を変化させることにより、前半部分と後半部分とに対向して形成されている保持縁で、カップの径に応じた受容孔を自在に画成することが可能となるので、常に、径の大小異なるカップでも安定に保持できる。

【0012】請求項2記載の発明によれば、受容孔の切欠を利用することにより、取っ手付のカップをも保持でき、請求項3記載の発明によれば、ホルダー体の前半部分と後半部分とを確実にロック及びロック解除でき、請求項4記載の発明によれば、前半部分を押し込むだけで、当該前半部分を後半部分に自動的にロックして、ハウジング内に収納できる。

【0013】

【発明の実施の形態】以下、本発明を図示する好適な実施の形態に基づいて詳述すれば、該実施の形態に係るカップホルダーも、従来と同様に、図1に示す如く、インストルメントパネル側に固定される箱形のハウジング1と、カップの受容孔を有して該ハウジング1内に引き出し可能に支承されるホルダー体2と、該ホルダー体2に回動可能に枢着されてカップの底部を載置支持する受け体3とを備えるものであるが、特徴とするところは、以下の構成を採用した点にある。尚、ハウジング1とホルダー体2と受け体3とは、いずれも、合成樹脂製品である。

【0014】即ち、本実施の形態にあつては、図示する如く、上記ホルダー体2を前半部分2Aと後半部分2Bとに2分割して、当該前半部分2Aと後半部分2Bとで、カップの径に応じた受容孔4を自在に画成せんとしたものである。

【0015】これを具体的に説明すると、ホルダー体2の前半部分2Aは、図2のAにも示す如く、後半部分2Bとの対向面の両側に凹円弧状を呈する一対の保持縁5を形成すると共に、該各保持縁5の中間に後半部分2B側に突出する角柱状の連結壁6を段部7を介して一体に延設して、該連結壁6の上壁に所定の長さ寸法を有する撓み可能な操作片8をU字状のスリット9を介して形成し、該操作片8の上面にロック爪10を設ける一方、連結壁6の先端部両側に凸部11aを有する撓み可能なストッパー片11を直線状のスリット12を介して形成する構成となっている。尚、上記ロック爪10の表面に対しては、連結壁6が後述する嵌合壁に嵌入される方向に下りテーパ状となる形態を積極的に付与するものとする。又、図中、13は受け体3のホルダー体2側に対する折り畳みを許容する逃げ部である。

【0016】他方、ホルダー体2の後半部分2Bは、図

2のBにも示す如く、前半部分2Aとの対向面両側に同様な凹円弧状を呈する一対の保持縁14を形成すると共に、該各保持縁14の中間に上記連結壁6をスライド可能に嵌合する角筒状の嵌合壁15を一体に設けて、該嵌合壁15の上壁に上記操作片8のロック爪10を係止するロック孔16を形成する一方、各保持縁14に近接した下面両側に受け体3の腕部3aに設けられている軸部19を回動可能に枢着する軸受部17を設け、且つ、後端縁にストッパー部18を設ける構成となっている。

【0017】従って、この前半部分2Aと後半部分2Bとでホルダー体2を組み立てる場合には、前半部分2Aの各ストッパー片11を内方へ撓ませながら、当該前半部分2Aの連結壁6を後半部分2Bの嵌合壁15内に嵌入すれば、前半部分2Aと後半部分2Bがスライド可能に連結されて、各部分2A・2Bの対向する保持縁5・14でカップの受容孔4が画成されることとなるが、前半部分2Aの段部7が嵌合壁15の前端縁に衝突するまで、連結壁6を最大限嵌合壁15内に嵌合した状態では、操作片8のロック爪10が嵌合壁15のロック孔16に係止して、前半部分2Aと後半部分2Bとが分離不能にロックされる。又、このロック状態の下で画成される受容孔4は最も小径となっているが、各受容孔4の外側部にはカップの取っ手を臨ましめる切欠21が存在することとなる。

【0018】依って、斯る構成のカップホルダーにあつても、基本的には、ストッパー部18がハウジング1の上縁に当接するまで、ホルダー体2をハウジング1内から引き出すと、受け体3が自重により回動して各受容孔4の下方に待機するので、後は、受容孔4内にカップを差し入れて、その底部を受け体3上に載置支持すれば、受容孔4内にカップを保持することが可能となる。尚、受け体3は、自身のストッパー部20を後半部分2Bの内面に当接することにより、その回動位置が規制される。

【0019】そして、実際の使用に際して、径の小さなカップ（図示せず）を保持する場合には、前半部分2Aの前面壁を把持しながら、前半部分2Aをハウジング1内から引き出せば、図3・図4に示す如く、ロック爪10のロック孔16に対する係止状態を得て、後半部分2Bも小径な受容孔4を画成したロック状態のまま一緒に引き出されるので、この小径な受容孔4を利用して、径の小さなカップを確実に保持できる。又、この場合に、保持されるカップがマグカップの如き取っ手付のものであつても、既述した受容孔4の切欠21の存在によって、何らの障害なく保持することが可能となる。

【0020】逆に、径の大きなカップを保持する場合には、ハウジング1内から前半部分2Aと後半部分2Bとをロック状態のまま引き出した後、操作片8の先端膨出部8aを下方に押圧して、ロック爪10のロック孔16に対する係止を解くと、前半部分2Aと後半部分2Bと

のロック状態が解除されるので、後は、図5・図6に示す如く、そのままの状態、ストッパー片11の凸部11aが嵌合壁15の後端縁に衝突するまで、前半部分2Aのみを手前にスライドさせて引き出すと、前半部分2Aの保持縁5と後半部分2Bの保持縁14とで画成される受容孔4を大径にできる。

【0021】従って、後は、この大径な受容孔4を利用して、径の大きなカップをも確実に保持できることとなり、又、この場合にも、受容孔4の切欠21の存在によって、取っ手付のカップをも何らの障害なく保持できることとなる。

【0022】そして、カップの保持が必要なくなった場合には、従来と同様に、ホルダー体2をハウジング1内に押し込んで収納すれば良い訳であるが、この時は、例え、前半部分2Aが手前にロック解除されて引き出されていても、前半部分2Aを押し込めば、操作片8はロック爪10の下りテーパー形状を利用して内側に撓みながら嵌合壁15内に移行して、前半部分2Aの段部7が嵌合壁15の前端縁に衝突した時点で、後半部分2Bも前半部分2Aと一緒にハウジング1内に押し込まれるので、今まで以上の煩雑な操作性が求められることも決していないし、且つ、前半部分2Aと後半部分2Bとは、ロック爪10のロック孔16に対する係止で、再び、分離不能なロック状態に置かれることとなる。

【0023】尚、径の大きなカップの保持に関しては、受容孔4を最大限大径とした場合を説明したが、少なくとも、ロック爪10のロック孔16に対する係止が解かれた時点から、ストッパー片11の凸部11aが嵌合壁15の後端縁に衝突する範囲内であれば、前半部分2Aのスライド量を無段階に調整できるので、比較的径の大きなカップを対象とする場合には、そのカップの径に最も適した大きさの受容孔4を提供できる。

【0024】又、前半部分2Aの後半部分2Bからの引き出し量を個々に規制した方が良い場合には、図7に示す如く、操作片8の上面に設けられるロック爪10を一定の間隔をおいて複数形成することも実施に応じ任意である。

【0025】

【発明の効果】以上の如く、本発明は、上記構成の採用により、従来の如き外観上の見栄えを害する調整部材を用いずとも、2分割されたホルダー体の前半部分と後半部分との連結状態を変化させることにより、前半部分と後半部分とに対向して形成されている保持縁で、カップ

の径に応じた受容孔を自在に画成することが可能となるので、常に、径の大小異なるカップでも安定に保持できることとなった。

【0026】又、特に、請求項2の下では、受容孔の切欠を利用することにより、取っ手付のカップをも保持することが可能となり、請求項3の下では、ホルダー体の前半部分と後半部分とを確実に且つ容易にロック及びロック解除することが可能となり、請求項4の下では、前半部分を押し込むだけで、当該前半部分を後半部分にロックしてハウジング内に収納することが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施の形態に係るカップホルダーを分解して示す斜視図である。

【図2】(A)はホルダー体の前半部分の中央縦断面図、(B)は同後半部分の中央縦断面図である。

【図3】ホルダー本体の前半部分と後半部分とで、小径な受容孔を画成してハウジングから引き出した状態を一部切欠して示す要部側面図である。

【図4】図3の要部平面図である。

【図5】ホルダー本体の前半部分と後半部分とで、大径な受容孔を画成してハウジングから引き出した状態を一部切欠して示す要部側面図である。

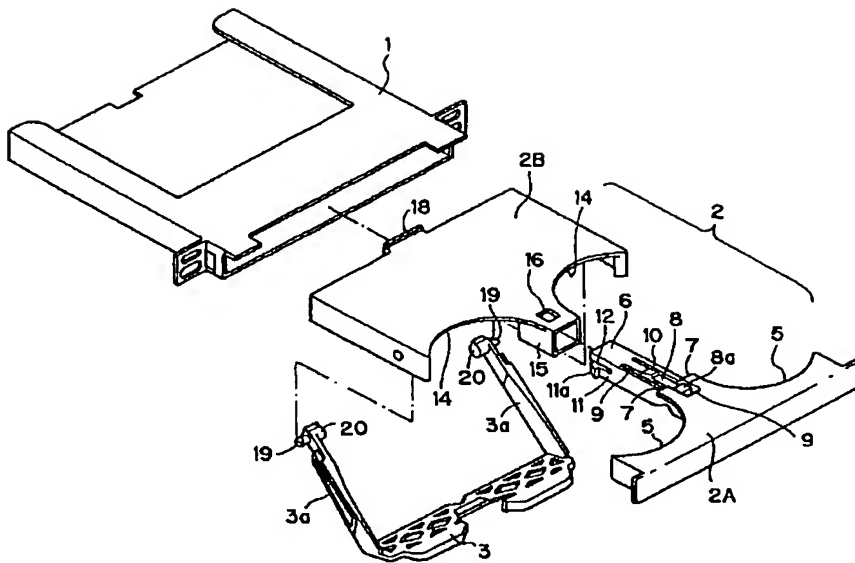
【図6】図5の要部平面図である。

【図7】前半部分の他例を示す斜視図である。

【符号の説明】

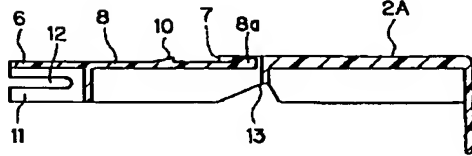
- 1 ハウジング
- 2 ホルダー体
- 2A 同前半部分
- 2B 同後半部分
- 3 受け体
- 4 受容孔
- 5 保持縁
- 6 連結壁
- 8 操作片
- 9 スリット
- 10 ロック爪
- 11 ストッパー片
- 12 スリット
- 14 保持縁
- 15 嵌合壁
- 16 ロック孔
- 21 切欠

【図1】

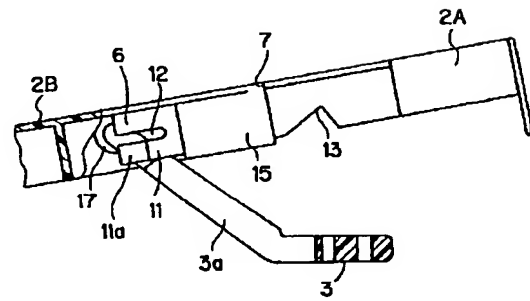


【図2】

(A)

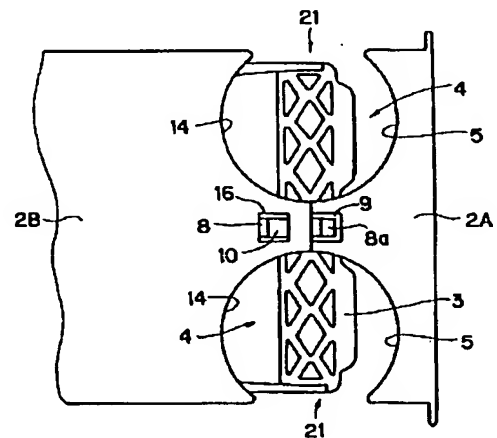
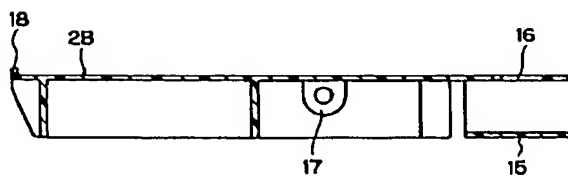


【図3】

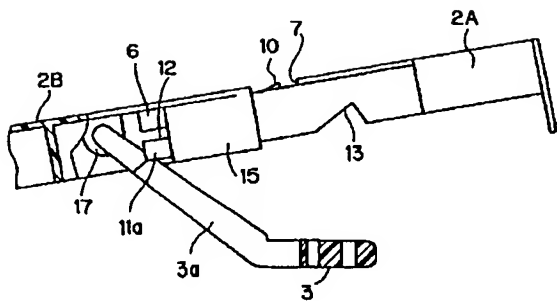


【図4】

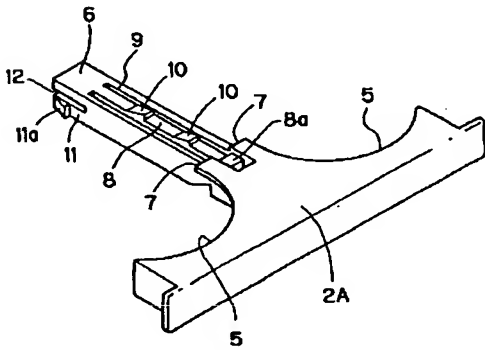
(B)



【図5】



【図7】



【図6】

